

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K20104

研究課題名（和文）米国ケネディ政権期における「平和のための宇宙」政策の研究

研究課題名（英文）Kennedy's "Space for Peace" Policy

研究代表者

田淵 有美（Tabuchi, Yumi）

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・招へい研究員

研究者番号：10908792

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、従来「冷戦構造」の派生物として理解されてきた米国ケネディ政権期の宇宙政策を、一次資料を用いた実証歴史学的手法に基づいて検討するものである。本プロジェクトでは特に、宇宙政策決定過程における大統領科学諮問委員会（President's Science Advisory Committee: PSAC）の役割に焦点を当てて検討した。研究の結果、軍縮交渉と文民宇宙計画の両分野で科学者が大統領の助言役を務めていたことで、「平和のための宇宙」政策は通常の冷戦競争とは異なるコースをとることになった、という知見が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記知見のポイントは、これまで切り離されて議論される傾向にあった文民宇宙計画と宇宙空間の非兵器化を一つの歴史として描き直す視角を提示したことである。これにより、従来は冷戦構造の外延として捉えられてきたケネディ政権の宇宙政策に対し、「平和のための宇宙」概念の普遍化という視点から、宇宙政策の歴史の多面性を提示することができる。このような学術的意義に加えて、本研究は歴史の教訓から、宇宙空間における国際規範の在り方や軍備管理・軍縮の発展可能性について示唆を与えるという点で社会的・政策的意義も大きい。

研究成果の概要（英文）：This study examines Kennedy's space policy, understood in existing scholarship as a derivative of the 'Cold War structure', using the methods of empirical history and primary sources. In particular, the project focused on the role of the President's Science Advisory Committee (PSAC) in the space policy-making process. The results of the study show that the perceptions and actions of the PSAC, which acted as an advisory body to the President in both the disarmament negotiations and the civil space programme, led to the 'space for peace' policy taking a different course from the usual Cold War competition.

研究分野：冷戦史

キーワード：宇宙政策 冷戦 科学者

1. 研究開始当初の背景

近年、米国外交史・冷戦史研究において宇宙政策の歴史的文脈を再検討する試みが増えている。しかし、こうした潮流では、米ソの宇宙軍拡競争に関心が集中する反面、米国宇宙政策史におけるもう一本の重要な縦糸である「平和のための宇宙」政策の歴史的展開には殆ど光が当てられていない。「平和のための宇宙」政策とは、アイゼンハワー政権期に打ち出された、宇宙空間の非兵器化やアメリカ航空宇宙局 (National Aeronautics and Space Administration : NASA) による文民宇宙計画の保護を目的とした宇宙政策の総称である。米ソ軍事対立の影で、実際には冷戦期以降の宇宙開発が「平和利用」目的の原則の下で展開されてきた歴史的経緯を踏まえると、この欠落は重大な学術的空白である。

こうした課題解決への糸口として、申請者はこれまで米国宇宙政策決定過程における大統領科学諮問委員会 (President's Science Advisory Committee : PSAC) の役割に関する実証分析を行い、米国の資料館にて調査を行ってきた。しかし、「平和のための宇宙」政策の起源にとどまるのではなく、後続政権であるケネディ政権期との連続性を検討する発展的研究を行うことにより、国際水準の成果を生み出し社会貢献性を高めたいと考えた。上院議員時代にはむしろ宇宙兵器開発に肯定的だったケネディは、大統領着任後、ソ連の脅威を懸念する国防総省内の強硬な反発にもかかわらず、敢えて宇宙空間への大量破壊兵器配置を禁ずる「国連決議 1884」や「米ソ共同月探査計画」を提案し、後の宇宙条約成立を基礎づけた。このように「平和のための宇宙」を基軸として定着させたという点でケネディ政権期は米国宇宙政策史における転換点であった。しかし、先行研究はケネディの宇宙政策を専ら米ソ宇宙軍拡競争もしくは威信獲得競争という観点からしか論じていないため、その政策決定は十分解明されていない。なぜケネディ政権は冷戦下において、「平和のための宇宙」政策を推し進めたのか。これが本研究の核心的な問いである。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトでは、上記の問いを踏まえ、ケネディ政権期の「平和のための宇宙」政策決定過程における科学者の役割を明らかにすることで、従来「冷戦構造」の派生物として理解されてきたケネディの宇宙政策に新たな解釈を提示することを目指した。

3. 研究の方法

以上の目的を達成するため、本研究プロジェクトでは先行研究が見落としてきた政権内科学者 (PSAC) の役割に焦点を当てた。具体的には、ケネディの「平和のための宇宙」政策の展開を、国家間の宇宙軍縮交渉と国内の文民宇宙計画という二つのプロセスから捉え直したうえで、両分野でケネディの助言役を務めていた PSAC の認識・行動が宇宙政策決定過程に及ぼした影響を掬い出すことで、取先行研究が描いてきた戦略的考慮を覆い隠すレトリックとしての「平和のための宇宙」とは大きく異なる解釈の提示を試みた。その際、以下のような幅広い資料から主要アクターとの関係性を立体的に捉えることで、宇宙政策決定過程を紐解くことを目指した。

宇宙軍縮交渉については、宇宙軍縮を検討するため組織された NSAM (National Security Action Memorandum) 委員会と PSAC の関係に焦点を当てた。その際、NSAM に関する史料が所蔵されるケネディ大統領図書館の議事録を用いて調査した。また、PSAC が軍の推進する爆撃衛星

のような宇宙兵器計画を抑制する過程を、上記に加え、ケネディの手紙、空軍大学季刊誌を用いて調査した。

文民宇宙計画については、アポロ計画や米ソ共同月探査計画をめぐる PSAC の NASA に対する態度・影響に焦点を当てた。その際、宇宙科学委員会の報告書や、PSAC 委員長のメモをケネディ大統領図書館所蔵にて調査した。

4．研究成果

研究の成果として、大きく次の二点を明らかにした。第一に、宇宙政策決定過程における主要アクターと PSAC の関係性である。宇宙軍縮交渉において PSAC は NSAM 委員会や軍備管理軍縮局と協働していた一方、文民宇宙計画に関しては、アポロ計画をめぐる PSAC は NASA と対立していた。このような関係性については前政権期からの連続性を読み取ることができる。この点は「アイゼンハワーの「平和のための宇宙」政策：NASA 設立過程にみる科学者の役割」(『アメリカ史研究』第 45 号)において成果の一部を公開した。第二に、宇宙政策決定過程における科学者のイニシアティブである。従来 PSAC は 1960 年代に入って徐々に影響力を失ったとされていたが、ケネディは PSAC 委員長の科学的助言を特に重視していたことを明らかにした。1960 年代を対象とした研究の多くはキューバ危機や部分的核実験禁止条約等を事例にケネディのリーダーシップの焦点を当てており、宇宙政策においても概してケネディの個人要因が強調される傾向にある。本研究プロジェクトはこうした潮流に対して、「平和のための宇宙」という文脈における科学者のイニシアティブを示すことで、こうした知見に再考を迫ることができた。

他方で、本研究プロジェクトでは分析期間が限られていること、1960 年代宇宙政策について網羅的には検討しきれていないこと、資料面での不足など、さらなる展開の余地が大きい。これらの点については、本研究プロジェクトの成果を踏まえて今後取り組んでいく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田淵有美	4. 巻 45
2. 論文標題 アイゼンハワーの「平和のための宇宙」政策：NASA設立過程にみる科学者の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アメリカ史研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田淵有美
2. 発表標題 冷戦期米国「平和のための宇宙」政策の進展
3. 学会等名 第七回大阪大学豊中地区研究交流会（招待講演）
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 田淵有美
2. 発表標題 米国宇宙政策黎明期におけるNASA設立とPSACの関係
3. 学会等名 日本アメリカ史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田淵有美
2. 発表標題 アイゼンハワーと「聖域としての宇宙」
3. 学会等名 関西日米交流フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------